

企画セッション プログラム

| セッション | 日時 | タイトル (企画責任者) |
|-------|----------------------------|---|
| 1 | 12月11日(金) 15:00 ~ 16:30 | 「都市の生物生息環境の研究、最近の事例」 加藤和弘(放送大学教養学部) |
| 2 | 12月12日(土) 14:00 ~ 15:30 | 「新たなステージに移行した日本の地層処分政策を考える」 松岡俊二(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科) 松本礼史(日本大学生物資源科学部) |
| 3 | 12月13日(日) 15:00 ~ 16:30 | 「自然エネルギー100%大学の多面的な意義」 原科幸彦(千葉商科大学) 田中信一郎(千葉商科大学 基盤教育機構) |
| 4 | 12月17日(木) 13:00 ~ 14:30 | 「デジタルとアナログのあいだー新しい風土論に向けて」 熊澤輝一(総合地球環境学研究所 研究基盤国際センター) 小野 聡(千葉商科大学商経学部) |

開催形態：オンライン (zoom ライブ配信)

参加にあたっての注意点

<参加登録・通信環境について>

- ・参加にあたっては大会サイト (https://www.ceis.or.jp/sympoinfo_2020.html) から参加手続きをお取りください (参加費は無料)。
- ・当日の運営・進行は各セッションの企画責任者にお任せしています。セッション時の通信トラブルなどについては、大会事務局では対応できませんのでご了承ください。
- ・ZOOM を初めて利用される方は、下記 URL から無料 ZOOM アプリの事前ダウンロードを推奨します (<https://zoom.us/download>)
- ・安定したインターネット接続環境下で聴講ください。

<その他>

企画セッションの録音・録画・スクリーンショット等は、オーガナイザーの許可のない限り禁止といたします。

- ・Zoom の会場に入られる際には、「名前」をフルネームに設定してください。
(イニシャルや苗字のみでの参加は会場運営に支障が生じる可能性がありますのでご協力ください)
- ・セッション中は、マイクを「ミュート」、カメラを「オフ」にしてください。
- ・質問時には、オーガナイザーの指示に従いマイクを「オン」にしてください。

【セッション 1】

| | |
|---------|--|
| 日 時 | 2020 年 12 月 11 日 (金) 15 : 00 ~ 16 : 30 |
| タイトル | 都市の生物生息環境の研究、最近の事例 |
| 企画責任者 | 加藤和弘 (放送大学教養学部) |
| 趣 旨 | 都市における生物多様性の保全と再生においては、都市における人間活動との両立が求められることから、しばしば多くの困難を伴う。そのような困難を克服するために、学術研究の側からはどのようなアプローチができるだろうか。核となる生物生息場所、生物の移動路、生態系サービス、外来生物の影響など、多様な視点からの研究が現に行われており、その成果のさらなる展開が望まれる。関連分野の研究者や学生がそれぞれの最近の成果を紹介し合う、研究交流の場を提供したい。 |
| 内容 (予定) | <p>本セッションについて (企画説明) 加藤和弘 (放送大学)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リモートセンシング技術と DNA メタバーコーディングを用いた生態系モニタリング 一ノ瀬友博 (慶応大学) 2. 外来種ハクビシンの都市への侵入モニタリング 高橋俊守 (宇都宮大学) 3. 都市近郊のグリーンインフラ環境における水辺生態系の質を考える 横田樹広 (東京都市大学) 4. 水鳥の移動路としての河川 : 東京都東部の市街地における事例 竹重志織 (放送大学) 5. 質疑応答 6. 総括 加藤和弘 (放送大学) |

【セッション2】

| | |
|---------|---|
| 日 時 | 2020 年 12 月 12 日 (土) 14 : 00 ~ 15 : 30 |
| タイトル | 新たなステージに移行した日本の地層処分政策を考える |
| 企画責任者 | 松岡俊二(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科) 松本礼史(日本大学生物資源科学部) |
| 趣 旨 | <p>北海道の寿都町の文献調査への応募や神恵内村の国の申入れ受諾など、日本の高レベル放射性廃棄物 (HLW) の地層処分をめぐる状況は新しいステージに移行しつつあります。地層処分政策をめぐるっては、新たな動きによって新たな課題が浮き彫りになると同時に、従来から積み残された問題も多くあります。</p> <p>福島原発事故から 10 年が経過する時期に出てきた新たな動向を踏まえ、地層処分政策をめぐる以下の 3 つの論点を中心に企画セッションを行います。</p> <p>(1) 地層処分施設の立地選定を基礎自治体 (市町村) をベースに進めることの問題点や弊害は、どのようにすれば軽減できるのか。</p> <p>(2) 過疎地域の町村における立地調査が先行する状況となっているが、全国的合意形成は必要ないのだろうか。また、全国的合意形成はどのようにすれば良いのだろうか。</p> <p>(3) 少なくとも数千年から数万年に及ぶ HLW リスクという世代間公平性に配慮した政策過程のデザインやガバナンスはどうすれば良いのだろうか。</p> |
| 内容 (予定) | <p>司会者 (趣旨説明 5 分) :</p> <p>松岡俊二 : 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授</p> <p>報告者 (各 10 分) :</p> <p>松本礼史 : 日本大学生物資源科学部教授 「地層処分政策と社会的受容性について考える」</p> <p>竹内真司 : 日本大学文理学部教授 「地層処分政策と技術的受容性について考える」</p> <p>黒川哲志 : 早稲田大学社会科学総合学術院教授 「地層処分政策と制度的受容性について考える」</p> <p>討論者 (各 5 分) :</p> <p>梅木博之 : 原子力発電環境整備機構・理事</p> <p>徳永朋祥 : 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授</p> <p>寺本 剛 : 中央大学理工学部准教授</p> <p>総合討論 (40 分)</p> |

【セッション3】

| | |
|---------|---|
| 日 時 | 2020 年 12 月 13 日 (日) 15:00 ~ 16:30 |
| タイトル | 自然エネルギー100%大学の多面的な意義 |
| 企画責任者 | 原科幸彦 (千葉商科大学) 田中信一郎 (千葉商科大学 基盤教育機構) |
| 趣 旨 | 近年、世界では大学のエネルギーを自然エネルギーに転換することが広く追求されている。例えば、国連 (UNFCCC) の主導による「Race to Zero」キャンペーンには、世界の 500 以上の大学が登録している。一方、2020 年 11 月 1 日現在、国内大学で本キャンペーンに登録しているのは千葉商科大学のみである。多くの環境研究者は大学に所属しており、多数の国内大学が本キャンペーンに登録していても不思議でない。そうでないのは、多面的な意義がステークホルダーに理解されていないためではないか。そこで、本セッションでは、大学のエネルギーを自然エネルギー化することの意義について、多面的に考察する。 |
| 内容 (予定) | <p>1. 原科幸彦 (千葉商科大学): 千葉商科大学は、なぜ自然エネルギー 100%を推進するのか (20 分)</p> <p>2. 平田仁子 (気候ネットワーク): 大学が自然エネルギー100%を目指すことの気候変動における意義 (15 分)</p> <p>3. 浜島直子 (千葉商科大学): 大学が自然エネルギー100%を目指すこと の国の環境政策における意義 (15 分)</p> <p>司会・討論者: 田中信一郎 (千葉商科大学) (議論 40 分)</p> |

【セッション4】

| | |
|-------|---|
| 日 時 | 2020 年 12 月 17 日 (木) 13:00 ~ 14:30 |
| タイトル | デジタルとアナログのあいだー新しい風土論に向けて |
| 企画責任者 | 熊澤 輝一 (総合地球環境学研究所 研究基盤国際センター) 小野 聡 (千葉商科大学 商経学部) |
| 趣 旨 | <p>人間以外の存在が知識処理を行うことが、人類社会と地球環境にどのような影響をもたらし得るのか。先端技術の多くの分野で人工知能による知識処理が行われつつある中、私たちは、デジタルとアナログが横断した世界での議論に耐える、人と自然との関係を捉えるための新しい思考の枠組を求められているのではないかと。</p> <p>本セッションでは、このような問題意識のもと新しい思考枠組を明らかにすべく行ってきた、現代社会に内在する「未来の兆し」を把握するためのアンケート調査、未来社会の会話づくり、試論形成の経過について報告した後、それらを手がかりに未来社会の風土論構築に向けた討論を行う。</p> |
| 内容 | <p>1. 熊澤輝一 (総合地球環境学研究所) : デジタルとアナログのあいだで考える人と自然 (15分)</p> <p>2. 三村 豊 (総合地球環境学研究所) : 共に創る未来社会への備えーいかに創造的な思考を育むか (15分)</p> <p>3. 小野 聡 (千葉商科大学) : リスク下における先端技術に対する信頼に関する研究ーリスク社会の風土論に向けて (15分)</p> <p>4. 寺田匡宏 (総合地球環境学研究所) : 「人新世の風土論」 (15分)</p> <p>コメント 松井孝典 (大阪大学) (5分)</p> <p>コメント 王 智弘 (京都精華大学) (5分)</p> <p>討論 (質問への回答を元に) (20分)</p> |